

Ro
og
A

文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.41



目次 ● 卷頭コラム「『カズイスチカ』に見る「何者でもない」鷗外・森林太郎について」山崎光夫(作家)
／開催中の展覧会 特別展「鷗外遺産～直筆資料が伝える心の軌跡」／カフェ便り／ショップ便り／展示のお知らせ コレクション展「鷗外の『水沫集』第一作品集に込めた詩想」／特集 没後100年鷗外忌記念講演会「五足の靴に見る即興詩人の影響——鷗外を仰ぎ見る人々」森まゆみ(作家、編集者)／活動報告／展示会場から／これからの催しもの／編集後記

鷗外生前に版を重ねた『水沫集』
カロワーズ撮影

鷗外生誕160年 没後100年 鷗外100年の森へ

そしてまさにこの『五足の靴』も『即興詩人』がなければ成立しなかつたものだと思われます。

旅人の一番年長が与謝野鉄幹(寛)です。新詩社を主宰して『明星』を出していました。北原白秋は柳川の酒問屋の息子で、彼も早稲田の1年生でした。後の二人は東京帝国大学の人で、木下李太郎は医科の1年生。それから平野万里は工科の学生で、与謝野晶子と鉄幹の夫妻を最期まで世話した人ですね。

当時は早稲田を中退したくらいでした。吉井勇は薩摩出身の伯爵吉井友実の孫で、彼も早稲田の1年生でした。後二人は東京

帝國大学の人で、木下李太郎は医科の1年生。それから平野万里は工科の学生で、与

謝野晶子と鉄幹の夫妻を最期まで世話した人ですね。

最初は、北海道か新潟の方に行く予定で

したが、李太郎が南蛮の跡を訪ねたいと強く推進したんです。彼は一高の時に既に下

イツ語でゲーテの『イタリア紀行』を読むことができました。『イタリア紀行』と、鷗外の訳した『即興詩人』を読んで、ヨーロッパの匂いがするところはどこかと考えたわけ

です。それが天草だった。

五足の靴が五個の人間を運んで東京を

出た。五個の人間は皆ふわふわとして落着かぬ仲間だ。

五足の靴が五個の人間を運んで東京を出た。五個の人間は皆ふわふわとして落着かぬ仲間だ。

五足の靴が五個の人間を運んで東京を出た。五個の人間は皆ふわふわとして落着かぬ仲間だ。

五足の靴が五個の人間を運んで東京を

出た。五個の人間は皆ふわふわとして落着かぬ仲間だ。

展示会場から

『文展日本画審査員寄書』

[100041]

鷗外の長男・於菟によると、この寄書は左上からウメは益頭峻南、ハゲイトウは望月金鳳、ハナショウブは竹内鳳、タンボは川合玉堂、ランは山岡米華、岩石は高島北海、マントリョウは野村文翠、スイセンは山元春攀が描いたといいます(『鷗外と書画』)。いずれも文展の日本画部門の審査員を務めた日本画家です。この面々から恐らく第二次もしくは第三回文展(明治41、42年)の時に描かれたものと考えられます。

鷗外没後、物置で見つかったというこの寄書を遺族が表装しましたが、戦時中、空

襲から逃れるために鷗外の遺品を保管した先で汚損してしまいました(『於菟』砂に書かれた記録)。この度、本資料に修復を施し、更に表装を改め、本来の繊細で美しい色彩を取り戻すことができました。常設コーナーにて1月29日まで展示していますので、是非会場でご覧ください。

参考文献・森於菟『森鷗外』養徳社 昭和21年、森於菟父親としての森鷗外筑摩書房

昭和44年、日展史編纂委員会『日展史

1 文展編』社団法人日展 昭和55年

伊藤比呂美氏の記念講演会を

開催しました

11月12日に、当館の開館10周年記念、

鷗外生誕160年・没後100年を記念した伊藤比呂美氏の講演会『鷗外先生とわたしupdated——ベルリンで考えたこと』を開催しました。この夏、かつて鷗外も過ごしたベルリンに滞在しじっくり鷗外と向き合ったという伊藤氏。

ジユリアンの美しさ、ベルリンの森、ロダンのモデルを題材とした小説『花子』、鷗外と同時代の音楽家リヒャルト・シュトラウス、表現主義の影響などのキーワードで、多岐にわたりお話をいただきました。詩人である伊藤氏独特のリズムとテンポで巡るあつという間の90分は「聴いているだけでリズムが楽しく身体が揺れた」「まるでジャズを聴いているようだった」などの感想が聞かれた、まるでコンサートのような講演会となりました。



五足の靴

五人づれ著
岩波文庫
平成19年



下巻(1) 吉井勇(いさみ)で書いた、今度の五人づれは長崎・平戸・鹿児島・又は南蛮文を複数し、同時に登り切るに近づき、次いで署名をした航行は新規航路され、日本取扱い文書の出版がなった。(解説: 宮和重)

1771 岩波文庫

茂木から天草の富岡へ船に乗り、そこから今度は歩いて旅の目的である大江天主堂へガルニエ神父を訪れます。キリストを匿った庄屋の上田家で話も聞いています。お供えで葡萄を作っている話も『即興詩人』と重なるし、『於母影』の「ミニヨンの歌」にも出てくる景色ですね。

ともにゆきし友みなあらず我一人
老いてまた踏む天草の島 勇

現在は地元でも顕彰して案内板や碑を建てています。資料館もあり、後にできた吉井勇の歌の拓本や、李太郎の詩碑もあります。

『五足の靴』の旅の後、結局、鉄幹と彼らは離反してしまって、明治41年に『明星』は100号で終わりになります。今度は吉井勇、李太郎、そして石川啄木らが「スバル」を創刊するのですが、このときの後ろ盾になつたのが鷗外ですね。そして耽美主義の人たちは「パンの会」で文学者、美術家たちも一緒に交流します。文学及び美術的結社といふが、作中の人物もK生(かん)、寛の音読み、H生(白秋)、I生(勇)、M生(太田正雄)、木下李太郎の本名、B生(万里)とイニシャルで記された。

2018年、「長崎と天草地方の潛伏キリシタン関連遺産」は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していったというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

シタン関連遺産は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

活動報告

北原久仁香氏の朗読会を開催しました

10月23日に、朗読会『高瀬舟』をよむを開催しました。ナレーターであり、語りと和

楽の芸人衆へかたりとして活動をされている北原久仁香氏による一人語りで、鷗外

は、李太郎も「言葉のサラド」と言っていますが、「切支丹」「伴天連」といった言葉をい

ち早く形象化したということだと思います。

いつも晶子と訪ねています。

長崎の円き港の青き水

ナボリを見たる目にも美し 鉄幹

外遊もしましたし『即興詩人』のナボリも思

い出して作った歌だと思います。

茂木から天草の富岡へ船に乗り、そこから今度は歩いて旅の目的である大江天主堂へガルニエ神父を訪れます。キリストを匿つた庄屋の上田家で話も聞いています。

お供えで葡萄を作っている話も『即興詩人』と重なるし、『於母影』の「ミニヨンの歌」に

も出てくる景色ですね。

ともにゆきし友みなあらず我一人
老いてまた踏む天草の島 勇

現在は地元でも顕彰して案内板や碑を建てています。資料館もあり、後にできた吉井

勇の歌の拓本や、李太郎の詩碑もあります。

『五足の靴』の旅の後、結局、鉄幹と彼ら

は離反してしまって、明治41年に『明星』は100号で終わりになります。今度は吉井

勇、李太郎、そして石川啄木らが「スバル」を

創刊するのですが、このときの後ろ盾になつたのが鷗外ですね。そして耽美主義の人たちは「パンの会」で文学者、美術家たちも一緒に交流します。文学及び美術的結社といふが、作中の人物もK生(かん)、寛の音読み、H生(白秋)、I生(勇)、M生(太田正雄)、木下李太郎の本名、B生(万里)とイニシャルで記された。

2018年、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

シタン関連遺産は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

『五足の靴』の旅の後、結局、鉄幹と彼ら

は離反してしまって、明治41年に『明星』は100号で終わりになります。今度は吉井

勇、李太郎、そして石川啄木らが「スバル」を

創刊するのですが、このときの後ろ盾になつたのが鷗外ですね。そして耽美主義の人たちは「パンの会」で文学者、美術家たちも一緒に交流します。文学及び美術的結社といふが、作中の人物もK生(かん)、寛の音読み、H生(白秋)、I生(勇)、M生(太田正雄)、木下李太郎の本名、B生(万里)とイニシャルで記された。

2018年、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

シタン関連遺産は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

『五足の靴』の旅の後、結局、鉄幹と彼ら

は離反してしまって、明治41年に『明星』は100号で終わりになります。今度は吉井

勇、李太郎、そして石川啄木らが「スバル」を

創刊するのですが、このときの後ろ盾になつたのが鷗外ですね。そして耽美主義の人たちは「パンの会」で文学者、美術家たちも一緒に交流します。文学及び美術的結社といふが、作中の人物もK生(かん)、寛の音読み、H生(白秋)、I生(勇)、M生(太田正雄)、木下李太郎の本名、B生(万里)とイニシャルで記された。

2018年、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

シタン関連遺産は世界遺産に登録されました。潜伏キリシタンの文化、つまり禁止され迫害されても命をかけて祈り続けた集落、人々に対して認定されたのです。キリスト教伝来と迫害の歴史も、調べると大変に複雑なのがあります。『五足の靴』をゆく文庫版にはそうした世界遺産についても増補しました。天草には一時、世界中から学生の集まつたコレジオという大学があつたとか、少年使節たちがグーテンベルクの印刷機械を持ち帰つて天草版という活版印刷を出していたというようなことも含めて読んでいただくと、知らない世界が広がって大変面白いと思います。

</div

これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧いただくなが、当館までお問い合わせください。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。
★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

12月23日(金) 11:00～17:00

文の京ワークショップ／ふみの日イベント

「なつかしの年賀状をつくろう！」○

会場：エントランス 料金：無料

なつかしい「芋版」で年賀状をつくりましょう！
ご家族やお友達と一緒にご参加ください。



1月19日(木) 10:00～17:30

鷗外誕生日記念行事

無料開館日 ○

1月19日は鷗外の161回目の誕生日です。
誕生日を記念して、無料で展覧会を観覧いただけます。

2月23日(木・祝)～3月22日(水) 10:00～18:00

文の京ワークショップ／ふみの日イベント 「手紙にまつわるブックフェア」○

会場：ミュージアムショップ

ふみの日にちなんで、手紙にまつわる書籍を集めたフェアを開催します。
是非お立ち寄りください。



3月19日(日) 14:00～15:30

展示関連講演会「世界文学への眺望—森鷗外の創作と翻訳—」

講師：松木 博氏（大妻女子大学短期大学部教授） 会場：講座室 定員：30名 料金：無料※要展示観覧券（半券可） 申込締切：2月28日(火) 必着

◆上記イベントの申込方法◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様（はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで）、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名（ふりがな）・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。

②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名（ふりがな）・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

〈館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております〉

○体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。

○咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒にご協力ください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催や内容の変更をさせていただく場合がございます。

ご来館の際は、事前にHPをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

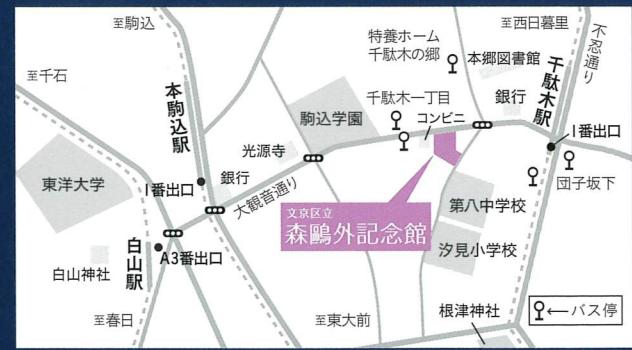
編集後記

当館は11月1日に開館10年の節目を迎えました。11月3日の文化の日から週末の6日にかけて、これまでの10年を展覧会チラシで振り返る記念イベントを開催。昨年制作し当館YouTubeチャンネルにアップした映像「漢詩でたどる鷗外の生涯」の上映会を行い、連日多くの方にお越しいただきました。

鷗外の顕彰施設やゆかりの地は全国にたくさんあります。島根県には森鷗外記念館（津和野）や島根県立石見美術館。ドイツ・ベルリンにはフンボルト大学附属森鷗外記念館。北九州市小倉には北九州市立文学館。そして文京区には当館以外にも東京大学附属図書館があり、鷗外生誕160年・没後100年にあわせて、それぞれの施設で記念展覧会などが開催されました。11月26日には、森鷗外記念館（津和野）の山崎一穎館長と、北九州市立文学館の今川英子館長をお招きし、それぞれの地で行われている顕彰事業をご紹介いただきました。当日の様子は、次号で詳しくお伝えします。

2022年の鷗外イヤーもよいよ終わりを迎えました。当館ではこれからも様々ななかたちで鷗外顕彰に努めてまいりますので、次の100年もよろしくお願いいたします。

交通案内



●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00（最終入館は17:30）

休館日 每月第4火曜日（祝日の場合は開館、その他例外あり）、
年末年始（12月29日～1月3日）、及び展示替期間、煙草期間等

印刷物番号 D0122043



2022年 開館10周年

文京区立 森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum